



選考委員特別賞 最相葉月賞

タガメから学んだもの

東大阪市立岩田西小学校 四年

三木 煌太

ぼくは自然が大好き。

そして自然にいる虫はもつと大好き。

ぼくは小学校でみんなから昆虫博士と呼ばれています。

ぼくが虫を大好きになったのは、今はもう天国にいる
 パパの影響です。幼稚園の年長組だったときに、パパと
 家の近くの甲山で朝早くからカブトムシを採りに行きま
 した。夜には外灯に集まってくる虫を見に行くこともあ
 りました。家にはつかまえた虫の飼育容器や水そうがた
 くさんあり大切にパパといっしょに育ててました。ぼく
 は幼稚園から帰ってくると飼育容器や水そうの中の虫た

ちを見るのがとても楽しみで虫のことが好きになりました。
 た。そしてたくさん虫のことを教えてくれるパパが大好
 きでした。

ある時、パパといっしょに昆虫図かんを見ていると、
 おどろくほどかっこいい虫がのっていました。ぼくをお
 どろかせた虫は、水生昆虫の中では一番大きな虫で、今
 や絶滅危惧Ⅱ類に指定されている『タガメ』です。ぼく
 はタガメをどうしても見たくなくて、家のまわりの田ん
 ぼや池をパパといっしょにさがしましたが見つかりませ
 んでした。パパも見なかった虫だったので、インターネット
 ネットでタガメがいる場所を探しては、ぼくをつれてい
 ろんな遠い場所に行ってくれました。でも、タイコウチ
 やコオイムシ、イモリなどは採れるのですが、どうして
 もタガメは採れないんです。タガメのいる場所はなかな
 か見つからなく、その年も秋が終わり、水生昆虫の季節
 は終わってしまいました。タガメはどこに行ったらどれ
 るのでしょうか。どうしてもぼくはタガメをとりたい気
 持ちがどんどん大きくなって来年には必ずとってやると

思い、タガメの本を図書かんに行ってたくさんかりて読みつくしました。そして夕食の時、パパとママの3人でたくさんタガメの話をして、楽しい時間をすごしました。

11月28日の夜、パパがとつぜんたおれて意識をうしなひ救急車で病院に運ばれました。パパは、病院のベッドでねむったままで、いつまでたっても起きてくれません。どんなにパパに話かけても返事もしてくれません。それから7日後の12月6日の午前2時12分にパパは、ぼくにさよならも言わずに天国に旅だつてしまいました。ママから脳出血の重い病気だつたとおしえてもらいました。ぼくの大好きなパパが急にいなくなりました。これからいつしよに虫どりに行くことも、もうできなくなつてしまいました。パパとタガメをどうろうとやくそくしたのに、パパがいらない。ぼくは、パパがいなくなつたショックで、幼稚園に行くことができなくなつてしまひママをこまらせました。それで大阪のママのおじいちゃんの家へ引越して新しい生活をはじめましたが、ずっと元気が出ずしよんぱりすごしていました。ママは学校の先生をして

ますが、仕事を休職して、ママもずっと家にいるようになりなりました。

虫のことをあまり知らないママが、タガメの本をたくさん買ってきてタガメのことを調べてくれました。その中にタガメ博士の市川憲平さんが姫路市立水族館にいるとわかり3月4日にママが新幹線に乗ってぼくを姫路までつれていってくれました。水族館の水そうにはタガメがいました。やっぱりタガメは大きくてかっこよかったです。それからタガメ博士の市川憲平館長に会つて、どこに行つたらタガメを採れるのか聞きました。するとそれほどタガメが好きなのだつたら、「観察会の日にタガメビオトープに来なさい」と言ってくれました。

タガメビオトープは、姫路市伊勢自然の里環境学習センターの中であり、無農薬でお米づくりもされていて自然豊かな場所でした。姫路まで通うのは遠くて大変だけど、田んぼの学校とタガメの会に入会しました。田んぼで田植えをしながら、タガメと出会える日をまつことにしました。ここの田んぼは、農薬を使わず昔のやり方で

お米を作ります。紫黒米を育てます。はだしになってどろまみれになって田植えをしていると、いろんな生き物に出会います。二ホンアカガエルのオタマジャクシやガムシやタイコウチなど。しかしタガメは見つかりません。またタガメは冬眠から起きてきていないようですが、なんだかわくわくしてきました。そしてついに、田んぼの草ぬきの日によくやく、ぼくひとりタガメをつかまえることができました。あみの中に大きなタガメのメスが入っていました。初めて自分でとったタガメにぼくはとても感動しました。パパが生きていれば、このタガメをパパに見せてあげたかったです。そしてパパといっしょに大きな声で「とったぞ!!」とさげびたかった。『パパ、タガメとれたで』

本当にうれしいうれしいゆんかんで、今でも覚えてます。やっぱりパパにタガメを見せてあげたかったよ。パパく。

姫路市伊勢自然の里環境学習センターのタガメヒオトープは、ぼくにとって心安まる場所です。自然豊かであくさんの生き物がいてます。また姫路市役所の職員さ

んやポランティアさんなど田んぼの学校にくるたび、いつも声をかけてくれます。タガメの会の会員の方もとても優しく、タガメについていろんな事を教えてください、ぼくにあって姫路は、元気をくれる場所になりました。ふしぎなことに、パパの先祖は姫路らしく、ママは「パパのご先祖様が姫路によんでくれたのね」と言ってます。姫路は、ぼくにあってふるさとであり、心休まる地です。ぼくはタガメのおかげですっかり元気をとりもどして小学校に通えるようになりました。

夏休みに入り、館長さんからタガメの幼虫をもらって育ててみることにしました。タガメの幼虫は、生きたもののしか食べません。そこで、ホームセンターで一匹100円の金魚をえさに与えていましたが、金魚は高いので、家の近くの田んぼでオタマジャクシを採りにいきタガメに与えました。しばらくすると、オタマジャクシを食べたタガメはあばれて死んでしまいました。これはその田んぼで使われていた農薬がオタマジャクシの体にたまっていたため、それを食べたタガメが死んでしまったのでは

ないかと館長さんに教えてもらいショックを受けました。

田んぼは農業を使っていて田んぼにすむ虫たちにはとても危険なところですよ。

『田んぼはお米をつくる工場ではない。』

田んぼは、お米以外にさまざまな命がいつしよに育つところですよ。つまり田んぼは多くの命をつくり出す工場でもあるんですよ。虫にも命があることを忘れてはいけない。これは亡くなったパパからおそわったことです。だからぼくは命を大切にします。タガメを育て、あらためて命というものを考えさせられました。

ぼくはタガメと出会うことにより、たくさん元気と生きていく力をもらいました。命ある虫を観察すると、気分がおちこんでいるときも「シャキーン」と元気があふれてきます。ぼくは自然からたくさん学んで、元気をたくさんもらえました。タガメにありがとうと言いたいです。虫はぼくにとつてめっちゃ楽しい存在です。いつも元気くれてありがとう。そしてこんなに虫好きにして

くれたパパありがとう。これからもずっと虫を追いかけて、自然環境と命を大切にして元気に生きていきたいと思えます。